



2024年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年4月24日

上場会社名 フューチャー株式会社 上場取引所 東
コード番号 4722 URL <https://www.future.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役会長兼社長 (氏名) 金丸 恭文
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 松下 恭和 TEL 03-5740-5724
四半期報告書提出予定日 2024年5月14日
配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
四半期決算説明会開催の有無: 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第1四半期の連結業績 (2024年1月1日~2024年3月31日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA ※		営業利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第1四半期	15,022	7.6	3,730	8.2	3,417	7.8	2,189	△0.2
2023年12月期第1四半期	13,965	10.8	3,448	△4.6	3,170	△5.1	2,193	△8.1

(注) 包括利益 2024年12月期第1四半期 1,690百万円 (△38.4%) 2023年12月期第1四半期 2,745百万円 (237.1%)

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

	1株当たり 四半期純利益
	円 銭
2024年12月期第1四半期	24.72
2023年12月期第1四半期	24.77

(注) 前第3四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前第1四半期連結累計期間に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期第1四半期	87,388	51,306	58.7	579.18
2023年12月期	66,043	51,387	77.8	580.10

(参考) 自己資本 2024年12月期第1四半期 51,306百万円 2023年12月期 51,387百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	-	20.00	-	20.00	40.00
2024年12月期	-	-	-	-	-
2024年12月期 (予想)	-	21.00	-	21.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

（％表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		親会社株主に帰属する 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
第2四半期（累計）	32,100	13.2	7,900	14.1	6,800	7.8	4,600	6.5
通期	70,200	18.3	17,000	13.2	14,650	6.9	9,900	7.4

	1株当たり 当期純利益
	円 銭
第2四半期（累計）	51.93
通期	111.76

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期 1 Q	95,328,000株	2023年12月期	95,328,000株
② 期末自己株式数	2024年12月期 1 Q	6,744,163株	2023年12月期	6,744,163株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期 1 Q	88,583,837株	2023年12月期 1 Q	88,556,048株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
3. 補足情報	10
受注の状況	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における経済環境をみると、不安定な世界情勢、国内におけるインフレーションの継続及び金利の上昇が見込まれる経済環境の中でも、企業のDX（デジタルトランスフォーメーション）や業務改革、生成AI等を利用した新たなデジタルサービスの創出といったITを通じた経営改革への取組みは引き続き旺盛です。また、働き方改革関連法の施行や人手不足への対応の取組みとして生産性・効率性の向上及び企業全体のサプライチェーンの見直し、ESG・SDGs関連分野におけるITの活用も加速しており、あらゆる業種や領域において活発なIT投資が続いています。個人においては、ECサイト経由での購買、動画やオンラインを活用した娯楽やスポーツ観戦、ネットサービス上での教育、自己啓発など、ITの利用が定着し、これらに関連した様々なサービスが生まれています。

このような状況下、当社においては中長期的な成長に資する大型プロジェクトが進行した結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は15,022百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益は3,417百万円（同7.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期において将来減算一時差異の見直しに伴い法人税等調整額のマイナスが増加しましたが、当期はその要因がないことから2,189百万円（同0.2%減）となりました。

各セグメントの業績（売上高・営業利益）については以下のとおりです。

① ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社（フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む）は、コンビニエンスストアのサプライチェーンにおけるデータを一元管理するデータマネジメントプラットフォームの構築支援、グローバル展開するロジスティクス企業へのWMS（Warehouse Management System）・AIソリューション・クラウド型倉庫制御システムを組み合わせた物流DXプラットフォームの導入など、顧客のDXを推進し、業務効率化を実現するプロジェクトをはじめ、多種多様な顧客の案件を獲得、推進いたしました。当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、地域金融機関向け次世代バンキングシステム導入プロジェクトが、1行目は当期のリリースに向けた最終的な統合テスト、2行目は開発・テストフェーズに入り、いずれも順調に推移しております。加えて、メディア向けCMS（Contents Management System）「GlyphFeeds」の導入プロジェクト、アパレル向け基幹プラットフォームシステム「FutureApparel」の導入プロジェクトなどが順調に進捗しております。これらの結果、前年同期比で増収増益となりました。また、当期においては複数の大型プロジェクトのリリースを予定していることから、より一層品質管理の体制を強化しています。

フューチャーインスペース株式会社は、定常的な保守運用サービスに加え、既存顧客システムのシステム基盤更改及びクラウド移行案件の開発が好調に推移しましたが、採用コストが増加したことから、前年同期比で増収減益となりました。

FutureOne株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注が増加したものの、大型の開発案件がピークアウトした影響により、前年同期比で減収減益となりました。

株式会社ワイ・ディ・シーは、製造業を中心とした顧客に対して、DXコンサルティング等を通じたデータ活用による工場マネジメントのデジタル化を実現する「SmartFactory」構築の牽引に加え、DX案件実行を通じた顧客への価値訴求の結果、収益性が向上したことなどから、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社ディアイティは、サイバー防御演習やセキュリティコンサルティング等のセキュリティサービスの売上比率は増加しているものの受注高は大きく伸びず、採用コストが継続して発生しており、前年同期比で減収減益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は13,041百万円（前年同期比6.5%増）、営業利益は3,533百万円（同4.5%増）となり、増収増益となりました。

② ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、経営改革の取組みとして、前期から推進しているデジタルプラットフォーム活用による単品管理と戦略売価設定により粗利率を改善するとともに、物流効率化により物流費を削減いたしました。また、単品での収益管理を徹底しながらアパレル商品のクリアランスを進めた結果、前年同期比で減収となったものの、営業損失額は縮小いたしました。

東京カレンダー株式会社は、メディア事業の売上が想定に届かなかったものの、「東カレデート」等のネットサービス収入が堅調に推移したことに加え、業務効率化とコスト圧縮により、前年同期比で減収増益となりました。

ライブリッツ株式会社は、スポーツチーム向けの会員管理・ECパッケージ「FastBiz」を複数のプロ野球チームに導入する案件に加え、プロサッカーチームへの展開も開始したことから売上が増加したものの、e sports事業の立ち上げに係る費用が発生したことから、前年同期比で増収減益となりました。

株式会社キュリオシティは、ジュエリー、腕時計等の海外ラグジュアリーブランドのストアデザインが順調に進捗いたしました。同社は前連結会計年度の第2四半期から新規に連結しており、当連結会計年度より業績が通期寄与いたします。

この結果、本セグメントの売上高は1,972百万円（前年同期比13.8%増）、営業損失は38百万円（前年同期は175百万円の損失）となり、前年同期比で増収増益となりました。

なお、報告セグメントにおけるフューチャー株式会社の持株会社機能の収益並びに費用及びセグメント間の取引消去を計上する「調整額」の営業損失が86百万円となり、前年同期比で82百万円の減益（前期は営業損失4百万円）となりました。これは、主にフューチャー株式会社が株式会社リヴァンプの株式取得関連費用を計上したことによるものです。

（2）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年4月24日開催の取締役会において、最近の業績動向等を踏まえ、2024年2月6日の2023年12月期決算発表時に開示した2024年12月期（2024年1月1日～2024年12月31日）の業績予想を修正することといたしました。詳細につきましては、2024年4月24日に公表しました「第2四半期（累計）及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	28,015	28,131
受取手形、売掛金及び契約資産	10,195	10,936
有価証券	200	—
商品及び製品	1,160	1,426
仕掛品	31	17
その他	4,637	5,303
貸倒引当金	△3	△2
流動資産合計	44,237	45,811
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,869	1,933
減価償却累計額	△1,317	△1,387
建物及び構築物（純額）	552	546
土地	0	0
その他	3,115	2,514
減価償却累計額	△2,648	△1,996
その他（純額）	466	517
有形固定資産合計	1,020	1,065
無形固定資産		
のれん	1,083	18,866
ソフトウェア	3,370	3,545
顧客関連資産	90	68
技術関連資産	1,135	1,104
その他	4	10
無形固定資産合計	5,684	23,595
投資その他の資産		
投資有価証券	13,770	15,307
敷金及び保証金	1,205	1,383
繰延税金資産	0	55
その他	126	175
貸倒引当金	△1	△5
投資その他の資産合計	15,102	16,915
固定資産合計	21,806	41,576
資産合計	66,043	87,388

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2024年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,096	1,665
1年内返済予定の長期借入金	—	2,856
未払金	1,604	2,523
未払法人税等	2,582	1,481
賞与引当金	277	1,440
品質保証引当金	103	111
プロジェクト損失引当金	38	11
その他	5,140	5,508
流動負債合計	10,842	15,599
固定負債		
長期借入金	—	17,143
資産除去債務	357	355
繰延税金負債	3,324	2,847
その他	132	136
固定負債合計	3,813	20,482
負債合計	14,656	36,082
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,000	4,000
資本剰余金	84	84
利益剰余金	41,537	41,955
自己株式	△2,201	△2,201
株主資本合計	43,421	43,838
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,938	7,435
繰延ヘッジ損益	△2	0
為替換算調整勘定	30	31
その他の包括利益累計額合計	7,966	7,467
純資産合計	51,387	51,306
負債純資産合計	66,043	87,388

（2）四半期連結損益及び包括利益計算書
（第1四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）
売上高	13,965	15,022
売上原価	7,315	7,730
売上総利益	6,650	7,292
販売費及び一般管理費		
役員報酬	143	163
給料及び賞与	1,534	1,714
雑給	72	81
地代家賃	230	230
研修費	61	101
研究開発費	338	296
減価償却費	72	112
採用費	190	242
のれん償却額	21	47
その他	813	884
販売費及び一般管理費合計	3,480	3,874
営業利益	3,170	3,417
営業外収益		
持分法による投資利益	10	15
為替差益	2	36
その他	5	6
営業外収益合計	18	58
営業外費用		
投資事業組合運用損	15	11
金融手数料	—	220
その他	0	4
営業外費用合計	16	235
経常利益	3,172	3,240
税金等調整前四半期純利益	3,172	3,240
法人税、住民税及び事業税	1,268	1,307
法人税等調整額	△288	△256
法人税等	979	1,051
四半期純利益	2,193	2,189
（内訳）		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,193	2,189

（単位：百万円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	540	△503
繰延ヘッジ損益	4	3
為替換算調整勘定	7	1
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	—
その他の包括利益合計	551	△498
四半期包括利益	2,745	1,690
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,745	1,690
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	I Tコンサル ティング& サービス事業	ビジネスイノ ベーション 事業	計				
売上高							
(1)外部顧客への 売上高	12,231	1,710	13,941	23	13,965	—	13,965
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	12	22	34	97	131	△131	—
計	12,243	1,732	13,976	120	14,097	△131	13,965
セグメント利益 又は損失(△)	3,381	△175	3,206	△31	3,174	△4	3,170

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社（テクノロジー部門を除く）の収益並びに費用の額であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	I Tコンサル ティング& サービス事業	ビジネスイノ ベーション 事業	計				
売上高							
(1)外部顧客への 売上高	13,022	1,943	14,966	55	15,022	—	15,022
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	18	28	47	117	164	△164	—
計	13,041	1,972	15,014	172	15,187	△164	15,022
セグメント利益 又は損失(△)	3,533	△38	3,495	8	3,504	△86	3,417

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社（テクノロジー部門を除く）の収益並びに費用の額であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

（子会社の取得による資産の著しい増加）

「ITコンサルティング&サービス事業」セグメントにおいて、株式会社リヴァンプを取得したことに伴い、同社及びその子会社1社を連結の範囲に含め、関連会社1社を持分法適用関連会社としております。これに伴い、前連結会計年度の末日に比べ、当第1四半期連結会計期間の「ITコンサルティング&サービス事業」のセグメント資産が28,206百万円増加しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「ITコンサルティング&サービス事業」セグメントにおいて、株式会社リヴァンプを取得したことに伴い、同社及びその子会社1社を連結の範囲に含め、関連会社1社を持分法適用関連会社としております。当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結会計期間において17,830百万円であります。なお、のれんの金額は、当第1四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。

3. 補足情報

受注の状況

（単位：百万円）

区分	前第1四半期連結累計期間 （自 2023年1月1日 至 2023年3月31日）		当第1四半期連結累計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ITコンサルティング&サービス事業	14,415	16,290	14,882	18,522
ビジネスイノベーション事業	721	767	1,343	1,847
合計	15,137	17,058	16,225	20,369

区分	前第4四半期連結会計期間 （自 2023年10月1日 至 2023年12月31日）		当第1四半期連結会計期間 （自 2024年1月1日 至 2024年3月31日）	
	受注高	受注残高	受注高	受注残高
ITコンサルティング&サービス事業	11,055	16,663	14,882	18,522
ビジネスイノベーション事業	1,185	1,592	1,343	1,847
合計	12,241	18,256	16,225	20,369